

|             |   |   |                  |
|-------------|---|---|------------------|
| 事業名称        | ちまたのけんきゅうミュージアム   |   |                  |
| 実行委員会       | 仙台・宮城ミュージアムアライアンス実行委員会  |   |                  |
| 中核館         | せんだいメディアテーク   |   |                  |
|             | 住所  | 〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町 2-1                            |                  |
|             | TEL   | 022-713-3171  | FAX 022-713-4482 |
|             | ホームページ  | <a href="https://www.smt.jp/">https://www.smt.jp/</a> |                  |
| 構成団体        | <p>仙台うみの杜水族館、せんだい3.11メモリアル交流館、仙台市科学館、仙台市縄文の森広場、仙台市天文台、仙台市富沢遺跡保存館、仙台市博物館、仙台市八木山動物公園、仙台市歴史民俗資料館、仙台文学館、東北学院大学博物館、東北大学総合学術博物館、東北大学史料館、東北大学植物園、東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館、東北福祉大学・鉄道交流ステーション、仙台市教育委員会生涯学習部</p>   |   |                  |
| 事業開始時点の課題分析 | <p>(1) 館種を越えたミュージアムの共同事業体として実行委員会が発足してから10年、異なる種別のミュージアムが共同で行う事業等の実施を通して、参加館相互の交流は進んだが、中核館が独自に進めてきた市民協働型の取り組みやクリエイターらとの連携を深める手法を実行委員会の活動全体に応用する機会が乏しかった。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス禍のなかで、一つの会場に多くの集客を前提とする従来型の展覧会やイベントの開催ができず、ミュージアムを通じた学びや体験の機会が当地域でも激減した。これまでのミュージアムが非来館者に対し十分に開かれたものでなかったという反省もふまえ、実施形式の工夫や中核館が得意とするメディア・テクノロジーにより、新たな形態のミュージアム活用を進める必要がある。</p>                                    |   |                  |
| 事業目的        | <p>(1) 市民の活動や地域のクリエイティブ機関・人材と複数のミュージアムの交流から地域資源のコンテンツ化を促す。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス禍に対応した、新しいミュージアム資源の活用手法を拡充し、誰もがミュージアムの持つ知的資源にアクセスしやすい環境づくりを進める。</p>  |   |                  |
| 事業概要        | <p>多様な分野のミュージアム資源と、クリエイターなど他の専門性と共働することにより、地域の自然や歴史、市民活動などの文化資源（“ちまたの文化資源”）を、横断的・創造的な観点で掘り起こし親しみやすい表現で発信する。また同様に、新型コロナウイルス禍において、来館だけにこだわらないミュージアム利用者創造につながるプログラムを開発する。</p> <p>(1) 分野横断的な共働によるミュージアム体験プログラムの開発と実践<br/>複数分野のミュージアムと地域の人材やクリエイターが連携して、地域の題材について新しい視点から構成した映像・音声・体験コンテンツを制作・提供する。</p> <p>(2) 冊子の制作と配布<br/>上述の連携を踏まえながら総合的な内容の冊子を制作し、一般へ提供するだけでなく、市民センターなど生涯学習機関や学校教育の現場でも活用を促す。</p> |   |                  |

|                            |   |
|----------------------------|---|
| <p>実施項目<br/>・<br/>実施体系</p> | <p>(1) 分野横断的な共働によるミュージアム体験プログラム</p> <p>①地域資源の掘り起こし、マッチング</p> <p>②さまざまなコンテンツ・プログラムの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声メディアコンテンツ『ミュージアムトークテラス・ラジオ』</li> <li>・映像作品『受け継ぐ-仙台の伝統門松-』</li> <li>・体験プログラム『歴ネット クイズラリー』</li> </ul> <p>③体験見本市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム（配信）『こどもたちとひらく未来のミュージアム』</li> <li>・見本市『ミュージアム・ユニバース』</li> </ul> <p>④見本市の参加者アンケートの実施</p> <p>2. 冊子の制作『ちまたのけんきゅうミュージアム テーマ：あな』</p> <p>①②③内容の検討／編集／発行・配布</p>   |
| <p>実施後の<br/>成果・効果等</p>     | <p>構成団体と地域のクリエイターや機関との関係が深まり、ミュージアム資源のより洗練された表出や新たな活用が開かれた。また、映像・音声・印刷メディアによるコンテンツが制作でき、その成果物の多くは公開後もオンライン上でアーカイブされ、将来にわたり利用できるようになったほか、新しい生活様式に即したミュージアム体験プログラムの実践事例ができた。</p> <p>(1) コンテンツやプログラムの利用実績</p> <p>①音声コンテンツの放送およびオンライン公開（のべアクセス数 135 件）</p> <p>②映像作品のオンライン公開</p> <p>③体験プログラム参加者（推計 5,913 名）</p> <p>④シンポジウム『こどもたちとひらく未来のミュージアム』（配信視聴者 141 名）</p> <p>⑤見本市『ミュージアム・ユニバース』（参加者 3,416 名）</p> <p>(2) 冊子『ちまたのけんきゅうミュージアム テーマ：あな』の採用事例</p> <p>10000 部発行・構成団体で市内に配布、Yahoo!ニュース等での取り上げにより全国でも流通したほか、小学校での授業副読本に採用（2 年生の国語、6 校）、市民センター講座での参考書に採用（高齢者向け講座）。</p> |

## 【事業実績】

※作成要領に従い事業実績は 2 頁で作成ください。

## 事業実績：ちまたのけんきゅうミュージアム

### 1. 分野横断的な共働によるミュージアム体験プログラム

#### (1) さまざまなコンテンツ・プログラム

##### ①音声メディアコンテンツ『ミュージアムトークテラス・ラジオ』

ラジオ局との共働により、『ミュージアムトークテラス・ラジオ』と題した番組を制作・放送した（1時間番組／全5回）。番組はパーソナリティの進行のもと構成団体の職員がさまざまな専門分野を平易に語る内容としたほか、放送後にポッドキャスト形式でのオンライン・アーカイブも試み（過去の企画の再録等をふくめ全11話）、広域・長期にわたり活用できるものとした。

[ポッドキャストへのリンク]

<https://open.spotify.com/show/72xAe5GAP2SnChNu13YWXR>

##### ②映像作品『受け継ぐ-仙台の伝統門松-』

仙台伝統の正月飾りを題材として、一年を通じてその準備や作り方の手順などを記録した映像作品『受け継ぐ-仙台の伝統門松-』を制作した。歴史系施設が中心となりつつ、美術映像系施設の参画や地域の作家の起用により、ドキュメンタリー映画として視聴に耐えうるものとした。

[作品へのリンク]

<https://www.youtube.com/watch?v=zTZY15vU5GI>



##### ③体験プログラム『歴ネット クイズラリー』

構成団体を中心とした周遊促進プログラム『歴ネット クイズラリー』を行った。地域のクリエイターを起用しスタンプ等を親しみやすいデザインにすることで、新型コロナ禍で来館需要を喚起することができた。

[参加者のコメント]

- ・ふだん行くことがなかった施設に初めて行くなど、出かけるきっかけになった。親子での会話が増えた。
- ・小学校でちょうど歴史の勉強をしていたので、予習、復習になってよかった。
- ・見つけるのも答えを探すのも難しかったけど、楽しかったです。



#### (2) 体験見本市

##### ①シンポジウム（配信）『こどもたちとひらく未来のミュージアム』

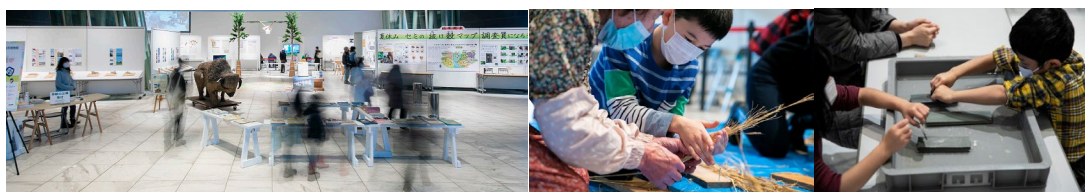
東日本大震災後にミュージアム活動による支援を行った全国有志団体「こども☆ひかりプロジェクト」との共催によりシンポジウム『こどもたちとひらく未来のミュージアム』を行った（2022年1月22日／配信／141名視聴）。なお、本企画は当初体験プログラムの見本市を想定していたが、新型コロナウイ

ルス蔓延により実施形態をあらため、シンポジウムのオンライン配信のみとしたほか、独自に印刷物を制作・配布した。



## ②見本市『ミュージアム・ユニバース』

構成団体の出展による見本市『ミュージアム・ユニバース』を行った（2021年12月18～26日／会場：せんだいメディアテーク1階）。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、期間を長く9日間、12種の展示と6種の体験プログラムを展開し、3,416名の参加があった。



### [参加者のコメント]

- ・様々な博物館・文学館・水族館があることを知りました。入口、興味のきっかけとしてステキな企画。
- ・地域の事を知るきっかけになって楽しいと思いました。一度に色々な展示が見られていいですね！
- ・コロナ禍のなかでもこのように体験できるイベントに参加することができて良かった。

## 2. 冊子の制作『ちまたのけんきゅうミュージアム テーマ：あな』

構成団体の所蔵資料や取り組みおよび人的ネットワークをもとに、地域のクリエイターとの共同作業によりテーマを「穴（あな）」と定めて編集・デザインをした冊子『ちまたのけんきゅうミュージアム』を制作した。本書は主に構成団体施設で配布したほか、要望があり小学校での授業での活用（副読本として）、市民センターでの講座での活用（地域学習講座の参考資料として）がなされた。また、全国ニュース等でとりあげられ問い合わせがあったため、市外の個人・団体への提供も行った。

